

## 第4回 幼・保・小合同研修会

と き 令和元年9月13日（金）午後3時～午後4時40分

ところ 郡山市総合福祉センター5階集会室

講 演 「発達障がいの人たちの理解と共に育つための確かな支援」

講 師 横浜市東部地域療育センター 臨床心理士 安倍 陽子先生

講師の安倍先生は、横浜市東部療育支援センター臨床心理士として日々、自閉症の子どもたちと関わっておられます。自閉症の特性について、子どもたちの姿を映像で確かめながら、解釈していただきました。

- 水遊びがやめられない子
- 思い通りにならないとパニックを起こす子
- 好きなものだけを食べる子
- 何でも飲み込んでしまう子                      など



### 1、「家庭で子育てが難しくなっている！」

#### 【自閉症の子どもの特徴】

- ◆しつけにのりにくい                      ◆依存性が強い
- ◆育ちが遅い                                  ◆切り替えが難しい

※社会環境の変化で、虐待が増えている。



### 2、「子どもも困っている！」

(1) 自閉症の無理解は、子どもへの無理な要求になっている。

子どもを理解する・・・見方・感じ方・理解の仕方が異なる。

➡ 学習スタイルに合わせた環境、指導、支援が必要。

(2) 自閉症の特徴からの困り

- ◆感覚面の特徴・音過敏
- ◆自閉症スペクトラム・・・普通の子に話しているような話し方では通じない。

社会的コミュニケーション問題

※小学校に入ってから目立つ行動・・・忘れ物が多い、失くし物が多い、持ってこない  
鉛筆の持ち方、協調運動が苦手

二次障害 ➡ 不安障害

(3) 心が傷つきやすく、疲れやすい

- 先生や親からの叱責・・・ことばによる指示/身体機能
- 見通しがもてない・・・何をどこで行うのか？
  - 何をどのように行うのか？
  - ことばによる予定、急な予定変更
  - 新しい活動、行事
  - 急に人が増える
- 整理されていない環境/教室
- 刺激となるもの・・・人・音/温度/湿度・光・臭い・味・身体接触など

3、「関わっている子どもたちが将来どのような人生を送るのか考えてみる！」

- ◇長い期間の基礎作り～どのような社会を創っていけばよいかを考える。
- ◇一般の保育園の中でも精査してみていく必要がある。
- ◇指示書があればできる→どういうものを指示書にするのかは子どもによって変えることで意欲につなげる。その子に合った工夫をする。(興味・関心に合わせる)
- ◇特性を生かした仕事を通して評価されることの喜びを経験する。
  - ※小学校でのお手伝いの経験が、将来の仕事に役立つ。
- ◇周囲の人がちょっと気配りをすることで、安心して過ごせる場になる。

何気ない日常に幸せがあると思えること。

《アンケートから》

- ・具体的な事例を通して説明していただき、とても参考になりました。現場に持ち帰りいろいろとやってみようと思います。
- ・具体例がとても参考になりました。ASDについての理解も深まりました。
- ・継続した取り組みを行っていくためにも、今回のような内容を繰り返し受講し、確認していく必要を感じました。
- ・一日の生活学習の流れに沿って、支援のポイントがよく分かりました。
- ・ASDの子の将来の職業は、日常の生活経験にあるのではないかと気づきました。
- ・視覚支援の有効性が改めて分かりました。学校でもユニバーサル化が進んでいます。できることから始めることが大切だと思いました。
- ・実際の社会で活躍している事例のDVD視聴はとても参考になりました。
- ・絵カードをいつはずすかについて職員間で話題に上がっていました。今回の内容を職員間で共有し子どもたちの支援へと役立てたいと思いました。“日常がしあわせだと思えるように”という言葉がステキですね。
- ・クラスで気になる子がいて、その子を思い浮かべながら話を聞かせていただきました。今までの保育を見直す良い機会となりました。ありがとうございました。
- ・視覚支援の大切さをとても感じました。日常保育の中でも言葉で伝えることが難しいと感じることが多くあるので、視覚支援を多く取り入れていきたいと思いました。
- ・その子の将来に思いをはせ、一つ一つ苦手やこだわりについて改善し、できる手立てを考え実践していくことの重要性を再確認できました。





